が運行され，昭和39年には正式に川口・田島間が運行されるようになりました。しかし，利用客が少なく，数年でこの路線は中止となっています。

昭和31年（1956年）5月23日，バスは大芦まで延長され，あわせて，鉄道が川口まで開通しました。いちばん奥の大芦は最も不便なところでしたが，このバスの開通によって人びとの足が確保されたわけです。日の丸の旗を振ってバスの開通を祝った写真が残されています。

バスや鉄道の開通が，それまで歩きだけに頼っていた村の人びとの暮らしに大きな変化をあたえるようになります。どのように変わったのかは，当時の出来事などをお年寄りの方から聞いて，記録に残すことも大切でしょう。

このようにして，昭和村にもバスが走るようになりましたが，川口への道路は，「つなぎ」が雪崩の危険地域で，冬期間はしばしば交通が途絶え，村は「陸の孤島」となってしまうことが何回もありました。当時の人びとの苦労話や危険な目にあったこと，途中で村に帰れなくなってしまったことなど，たくさんの話を聞くことができます。

現在では，雪崩から道路を守るスノーシェッドなどがあちこちにつくられ，除雪のためのブルドーザーなどもりっぱに備えられたので，交通が途絶えてしまうことは，ほとんどなくなりました。

バスがはじめて運行された昭和26年は，昭和村にとって忘れることができない大きな出来事がありました。それは，5月3日の下中津川部落の大火です。役場，小学校をはじめ部落のほとんどが焼けてしまい，国の災害救助法が発動されています。現在でも下中津川部落では，毎年5月3日に「無火災祈願」を行っています。